

伝賞 箱根駅伝 応援もらった結果

箱根駅伝 矢沢選手が市長を訪問

二、三日に行われた東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)の1区(21・4キロ)で区間賞を獲得した川崎市宮前区出身で早稲田大学一年の矢沢曜選手(18)が十三日、同市役所に阿部孝夫市長を訪問した。

市立菅生中学校、県立多摩高校の出身。箱根駅伝では、一八一秒の長身を生かしたダイナミックな走りを見せ、多摩川を渡った後は地元・川崎の熱い声援を受けながら快走し、早大の総合二位に貢献した。

矢沢選手は区間賞の走りを振り返り、「自分の力と



阿部市長(右)を訪問した矢沢選手
＝川崎市役所

に応援していただいた結果だと思ふ」と感謝の気持ちを強調。さらに「来年以降も箱根駅伝を走り、早稲田の総合優勝に向けて努力したい」と力を込めた。

阿部市長は「昨年は県立川崎北高の吉田えりさんがプロ野球選手になるというニュースがあったが、今年は早速、矢沢選手の大活躍となった。前々から素晴らしい選手と聞いているが、今後も頑張ってもらいたい」と激励。記念品としてランニング用の手袋を贈った。

中学時代の陸上競技部顧問の辻敏明教諭(44)も同席。「自分の教え子が箱根駅伝を走るのが夢だった。彼の強みは競技力よりも素直で謙虚な人間性。ひたむきな努力が今回の成績につながった」と語った。

(佐々木 航哉)

今年の東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)で、東京都内から川崎市内を快走、横浜・鶴見中継所でたすきをつないで1区区間賞に輝いた県立多摩高出身の早稲田大1年矢沢曜選手(18)が13日、川崎市役所を訪れ、阿部孝夫市長に、市民からの声援に対する感謝を伝えた。

箱根区間賞早大生 市長訪問 県立多摩高出身の矢沢選手

矢沢選手は1区21.4キロを1時間4分48秒で好走し、早稲田大の往路2位、総合2位の原動力となった。同市立菅生中陸上競技部で長距離走を始め、この日の訪問には、同部顧問の恩師、辻敏明教諭(44)も同席。矢沢選手は「川崎に入ると、たくさんの応援を頂いた。それが力になって区間賞が取れた。箱根駅伝優勝に向け、これからも努力したい」と語った。

阿部市長は「テレビで見て感激した。これからも川崎を前面に出して走って」と激励、ランニング用手袋をプレゼントした。

阿部市長に今後の活躍を誓った矢沢曜選手(左)
(13日午後)

